
市川町景気動向調査

2021年7-9月期

市川町商工会

目 次

I. 調査要領.....	- 1 -
1. 調査目的.....	- 1 -
2. 全国および兵庫県の経済動向調査.....	- 1 -
3. 管内調査.....	- 1 -
II. 全国および兵庫県の経済動向.....	- 2 -
III. 管内調査結果.....	- 3 -
1. 売上高の状況.....	- 3 -
2. 採算（経常利益）の状況.....	- 5 -
3. 資金繰りの状況.....	- 7 -
4. 人材の状況.....	- 10 -
5. 業況の状況.....	- 14 -
6. 設備投資の実施状況.....	- 16 -
7. 最も優先すべき経営上の課題.....	- 17 -

1. 調査要領

1. 調査目的

管内の中小・小規模事業者の景気動向について、その実態を把握すると共に、全国及び兵庫県内の情勢との違いを把握する。

2. 全国および兵庫県の経済動向調査

全国及び兵庫県の景気動向指数、中小企業景況、住宅着工件数、有効求人倍率、倒産件数の動向について整理した。

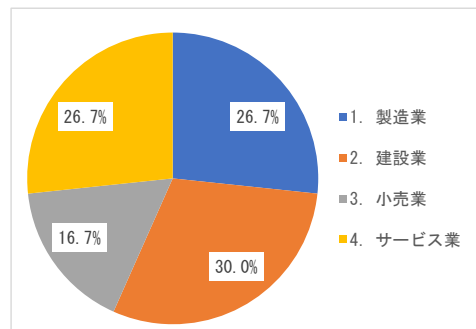
3. 管内調査

市川町商工会管轄内の企業を対象に、アンケート調査を実施した。

(1) 対象企業数…30 企業

〈内訳〉

製造業	8 社
建設業	9 社
小売業	5 社
サービス業	8 社



(2) 調査方法…商工会の職員による訪問面接調査

(3) 調査対象期間…2021年7月から9月の第2四半期を対象とした。

※指標について

本報告書のD I とは、「ディフュージョン・インデックス」(景気動向指数)の略で、各調査項目において増加・上昇・好転とした企業割合から、減少・低下・悪化とした企業割合を引いたものである。

II. 全国および兵庫県の経済動向

景気総合指数

兵庫県の先行指数と遅行指数(R3.8)は、前月を下回った。一致指数は前月を上回った。

	指数名	R3.6	R3.7	R3.8
兵庫県	先行	111.3	109.4	109.3
	一致	80.0	77.8	77.9
	遅行	88.8	89.5	87.7
全国	先行	104.2	104.1	101.8
	一致	94.6	94.4	91.5
	遅行	94.2	95.3	94.8

出所：「兵庫県の経済雇用情勢」

中小企業景況調査

兵庫県の中小企業の景況は悪化状況が続いているが、非製造業ではマイナス幅が縮小している。製造業は前期よりやや悪化した。

前期比（「好転」－「悪化」）構成比（%）

	R3.1-3	R3.4-6	R3.7-9
全産業	▲26.0	▲24.2	▲19.5
製造業	▲22.2	▲10.0	▲12.7
非製造業	▲27.3	▲29.8	▲20.2

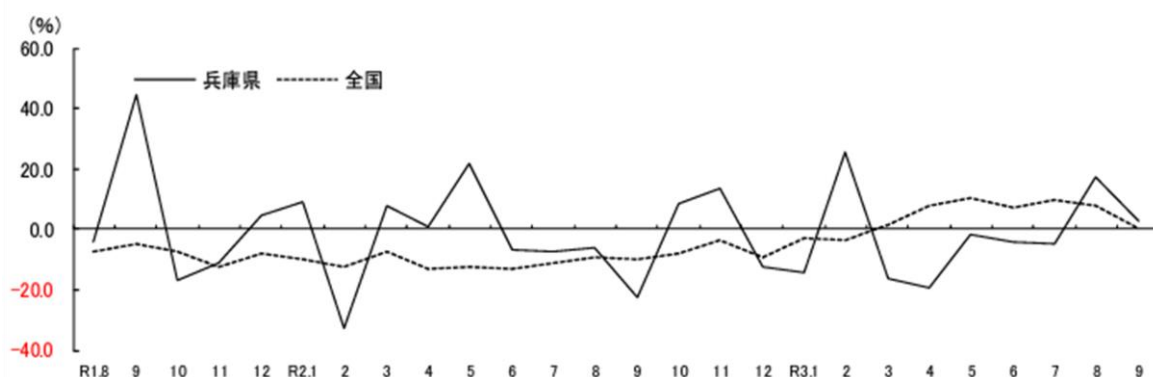
出所：独立行政法人中小企業基盤整備機構

住宅着工件数

兵庫県の新設住宅着工戸数(R3.9)は、2 カ月連続で前年同月を上回った。

	R3.7	R3.8	R3.9
戸数	2,425	2,641	2,569
前年度比(%)	▲5.1	17.4	2.7

新設住宅着工戸数増減率



出所：国土交通省

有効求人倍率

姫路管内の有効求人倍率（R3.9）は1.23倍、兵庫県では0.93倍となった。

	R3.9		
	姫路※	兵庫県	全国
有効求人倍率	1.23	0.93	1.14
新規求人数	3,599	29,358	808,144
前年度比(%)	▲2.6	▲0.5	6.6

※姫路市・宍粟市・たつの市・神崎郡・揖保郡を含む姫路ハローワーク管轄内

出所：厚生労働省、同兵庫労働局

倒産件数

兵庫県の企業倒産件数は、7月・8月と前年同月を下回ったが9月は上回った。全国の8月は50年間で最少となった。

	R3.7	R3.8	R3.9	
兵庫県	件数	32	27	39
	前年度比(%)	▲23.8	▲40.0	39.3
全国	件数	476	466	505
	前年度比(%)	▲39.7	▲30.1	▲10.6

出所：(株)東京商工リサーチ

Ⅲ. 管内調査結果

1. 売上高の状況

(1) 売上高D I

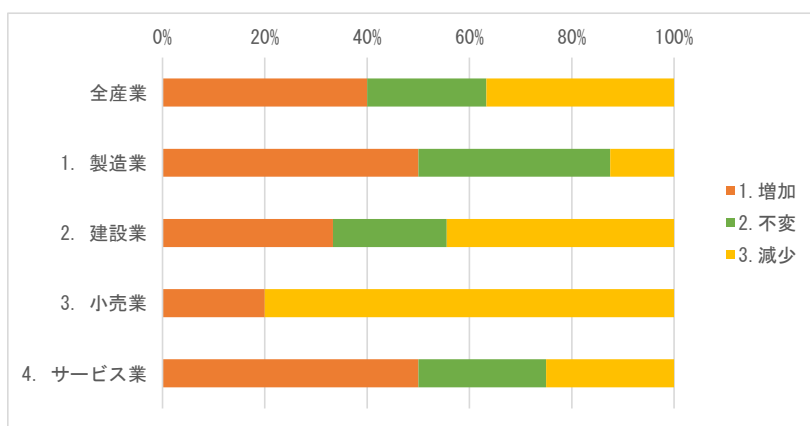
今期の全産業売上高D Iは3.3となり、前期の13.3より10.0ポイント悪化した。業種別では、建設業は改善したが製造業は悪化した。小売業とサービス業は前期と同じ数値であった。

兵庫県や全国では、ほとんどの業種で数値が悪化した。兵庫県の製造業は、前期はプラス値だったが今期はマイナス値になった。

図表1. 業種別の売上高D I

【今期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.増加	2.不変	3.減少	合計	1.増加	2.不変	3.減少	DI	DI	DI
全産業	12	7	11	30	40.0	23.3	36.7	3.3	▲ 29.0	▲ 32.3
1. 製造業	4	3	1	8	50.0	37.5	12.5	37.5	▲ 2.1	▲ 12.6
2. 建設業	3	2	4	9	33.3	22.2	44.4	▲ 11.1	▲ 27.0	▲ 18.0
3. 小売業	1	0	4	5	20.0	0.0	80.0	▲ 60.0	▲ 35.4	▲ 42.9
4. サービス業	4	2	2	8	50.0	25.0	25.0	25.0	▲ 42.5	▲ 41.3



【参考：前期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.増加	2.不変	3.減少	合計	1.増加	2.不変	3.減少	DI	DI	DI
全産業	12	10	8	30	40.0	33.3	26.7	13.3	▲ 10.9	▲ 17.9
1. 製造業	7	1	0	8	87.5	12.5	0.0	87.5	20.0	▲ 10.7
2. 建設業	2	3	4	9	22.2	33.3	44.4	▲ 22.2	▲ 15.4	▲ 14.8
3. 小売業	0	2	3	5	0.0	40.0	60.0	▲ 60.0	▲ 39.6	▲ 27.5
4. サービス業	3	4	1	8	37.5	50.0	12.5	25.0	▲ 9.6	▲ 15.9

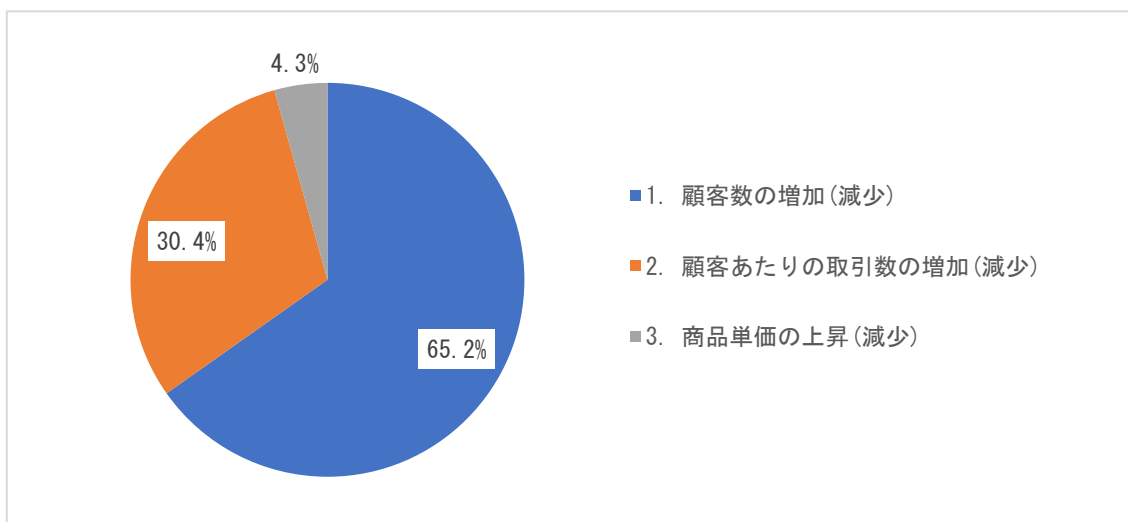
(2) 売上が増加、または減少した理由

売上が増減したと回答した事業所 23 所のうち、約 7 割が主な理由を「顧客数の増減」とした。次に、「顧客あたりの取引数の増減」が約 3 割であった。前期は、取引数を理由にした事業所が多かったのに対し、今期は割合が逆転し、顧客数を理由とする事業所が多くなった。

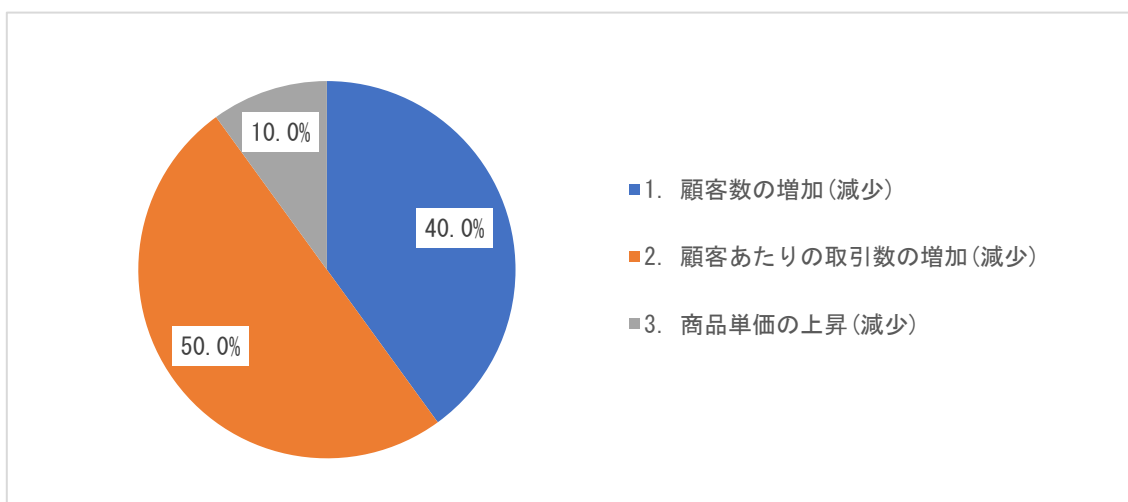
なお、売上が増加した事業所は 12 所あり、増加理由は「顧客数の増加」58.3%、「顧客あたりの取引数の増加」33.3%、「商品単価の上昇」8.3%であった。売上が減少した事業所の減少理由は「顧客数の減少」が 72.7%と多く、「顧客あたりの取引数の減少」が 27.3%であった。

図表 2. 売上高増減の理由

【今期調査結果】



【参考：前期調査結果】



2. 採算（経常利益）の状況

(1) 採算DI

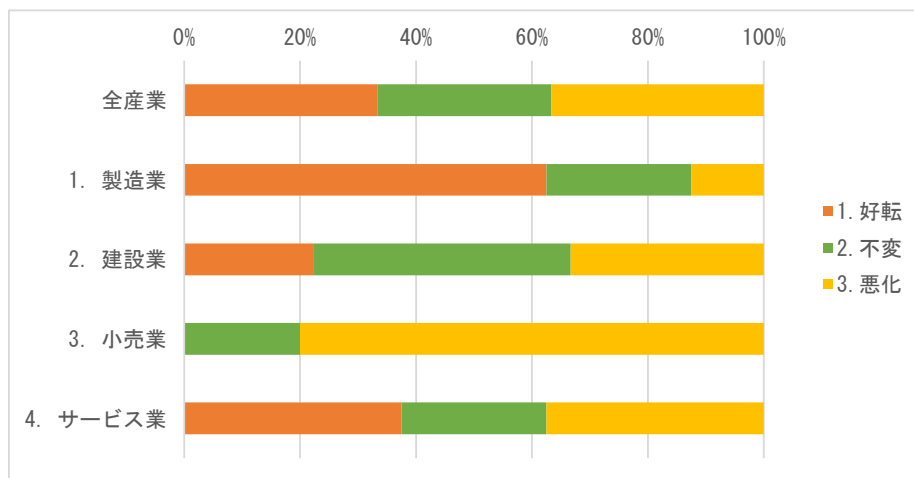
今期の全産業売上高DIは▲3.3となり、前期の▲10.0より改善した。業種別に見ると、建設業はマイナス幅が縮小し、サービス業は前期と同じ値となった。小売業でマイナス幅が広がっているのが目立つ。

兵庫県と全国の数値は、ほとんどの業種がやや悪化した。

図表3 業種別の採算DI

【今期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.好転	2.不変	3.悪化	合計	1.好転	2.不変	3.悪化	DI	DI	DI
全産業	10	9	11	30	33.3	30.0	36.7	▲ 3.3	▲ 28.5	▲ 36.3
1. 製造業	5	2	1	8	62.5	25.0	12.5	50.0	▲ 8.7	▲ 23.2
2. 建設業	2	4	3	9	22.2	44.4	33.3	▲ 11.1	▲ 46.2	▲ 26.2
3. 小売業	0	1	4	5	0.0	20.0	80.0	▲ 80.0	▲ 37.5	▲ 44.0
4. サービス業	3	2	3	8	37.5	25.0	37.5	0.0	▲ 28.8	▲ 41.8



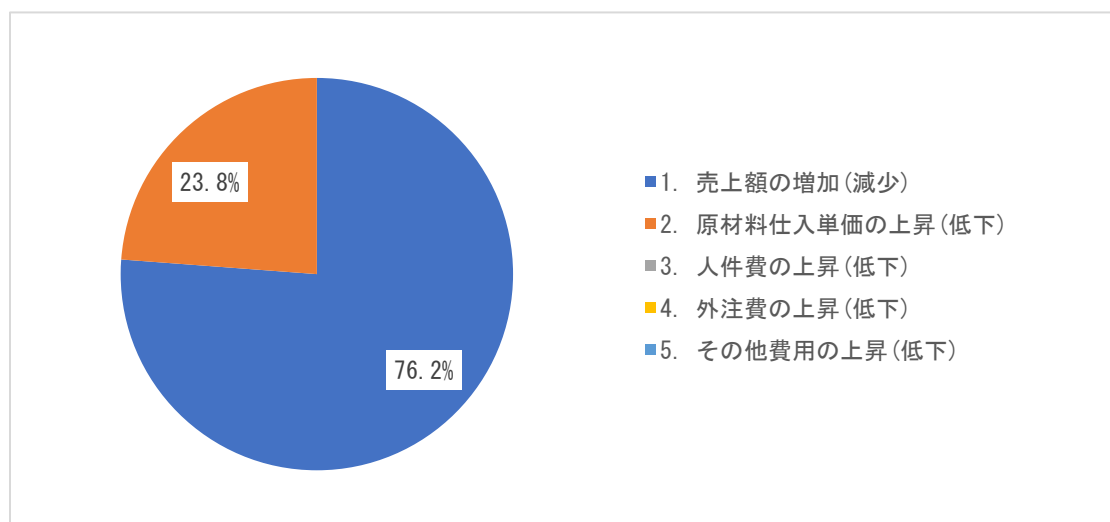
【参考：前期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.好転	2.不変	3.悪化	合計	1.好転	2.不変	3.悪化	DI	DI	DI
全産業	9	9	12	30	30.0	30.0	40.0	▲ 10.0	▲ 22.9	▲ 28.3
1. 製造業	6	1	1	8	75.0	12.5	12.5	62.5	8.9	▲ 20.3
2. 建設業	0	4	5	9	0.0	44.4	55.6	▲ 55.6	▲ 30.8	▲ 19.9
3. 小売業	0	2	3	5	0.0	40.0	60.0	▲ 60.0	▲ 41.6	▲ 36.8
4. サービス業	3	2	3	8	37.5	25.0	37.5	0.0	▲ 27.4	▲ 29.7

(2) 採算が好転、または悪化した理由

採算が好転、または悪化したと回答した事業所 21 所のうち、約 4 分の 3 がその理由を「売上高の増減」にあるとした。残りは「原材料仕入単価の変動」であった。採算が好転した事業所は 10 所あり、1 社をのぞき「売上額の増加」が主な理由であった。

図表 4. 採算好転悪化の理由



3. 資金繰りの状況

(1) 資金繰りDI

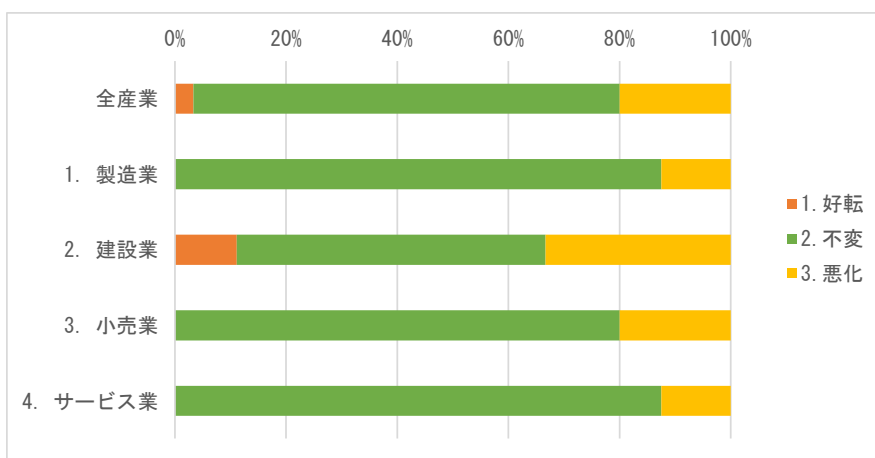
今期の全産業資金繰りDIは▲16.7で、前期のゼロより悪化した。業種別に見ると、前期はプラスに転じていた製造業とサービス業が、再びマイナス値となった。小売業は前期から変化なし、建設業はやや悪化した。

兵庫県の全産業はマイナス幅がやや縮小し、全国の全産業はマイナス幅がやや広がった。

図表5. 業種別の資金繰りDI

【今期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.好転	2.不変	3.悪化	合計	1.好転	2.不変	3.悪化	DI	DI	DI
全産業	1	23	6	30	3.3	76.7	20.0	▲ 16.7	▲ 18.3	▲ 23.2
1. 製造業	0	7	1	8	0.0	87.5	12.5	▲ 12.5	▲ 8.7	▲ 15.1
2. 建設業	1	5	3	9	11.1	55.6	33.3	▲ 22.2	▲ 26.9	▲ 10.0
3. 小売業	0	4	1	5	0.0	80.0	20.0	▲ 20.0	▲ 18.7	▲ 28.0
4. サービス業	0	7	1	8	0.0	87.5	12.5	▲ 12.5	▲ 21.1	▲ 29.4



【参考：前期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.好転	2.不変	3.悪化	合計	1.好転	2.不変	3.悪化	DI	DI	DI
全産業	3	24	3	30	10.0	80.0	10.0	0.0	▲ 20.5	▲ 18.4
1. 製造業	1	7	0	8	12.5	87.5	0.0	12.5	▲ 13.4	▲ 14.7
2. 建設業	1	6	2	9	11.1	66.7	22.2	▲ 11.1	▲ 23.1	▲ 3.5
3. 小売業	0	4	1	5	0.0	80.0	20.0	▲ 20.0	▲ 12.5	▲ 23.6
4. サービス業	1	7	0	8	12.5	87.5	0.0	12.5	▲ 29.6	▲ 22.9

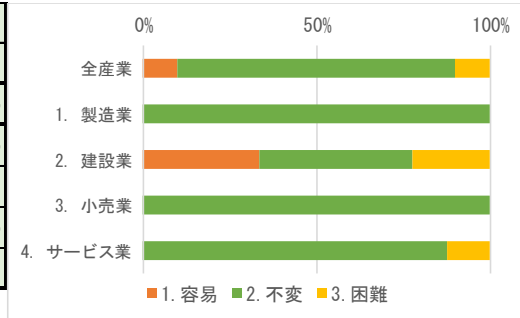
(2) 取引先からの資金回収

今期の全産業資金回収DIはゼロで、前期より10ポイント低下している。製造業とサービス業で悪化しており、サービス業ではプラスからマイナスに転じた。資金回収が「困難」とした事業所数は、前回の1社から3社に増加した。

図表6. 業種別の資金回収DIの状況

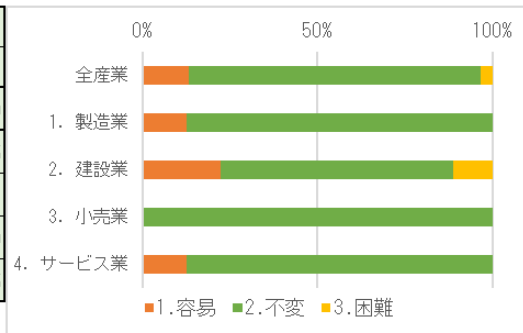
【今期調査結果】

	企業数				構成比			市川町 DI
	1.容易	2.不変	3.困難	合計	1.容易	2.不変	3.困難	
全産業	3	24	3	30	10.0	80.0	10.0	0.0
1. 製造業	0	8	0	8	0.0	100.0	0.0	0.0
2. 建設業	3	4	2	9	33.3	44.4	22.2	11.1
3. 小売業	0	5	0	5	0.0	100.0	0.0	0.0
4. サービス業	0	7	1	8	0.0	87.5	12.5	▲ 12.5



【参考：前期調査結果】

	企業数				構成比			市川町 DI
	1.容易	2.不変	3.困難	合計	1.容易	2.不変	3.困難	
全産業	4	25	1	30	13.3	83.3	3.3	10.0
1. 製造業	1	7	0	8	12.5	87.5	0.0	12.5
2. 建設業	2	6	1	9	22.2	66.7	11.1	11.1
3. 小売業	0	5	0	5	0.0	100.0	0.0	0.0
4. サービス業	1	7	0	8	12.5	87.5	0.0	12.5



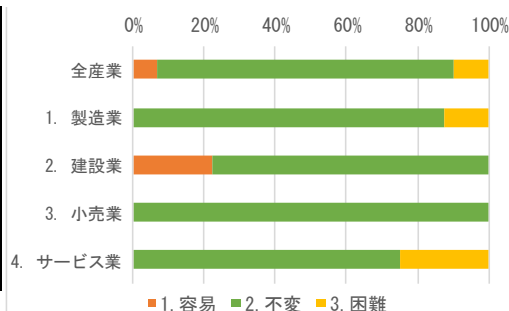
(3) 借入の容易さ

今期の全産業借入の容易さDIは▲3.3で、前期のゼロから悪化した。建設業は改善し、サービス業は悪化している。借入を「容易」とする事業所数は前回と変わらなかったが、「困難」とする事業所が1社増えた。

図表7. 業種別の借入DIの状況

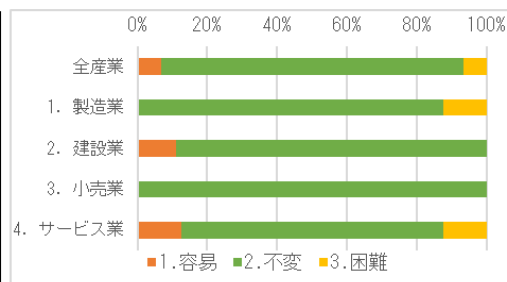
【今期調査結果】

	企業数				構成比			市川町 DI
	1.容易	2.不変	3.困難	合計	1.容易	2.不変	3.困難	
全産業	2	25	3	30	6.7	83.3	10.0	▲ 3.3
1. 製造業	0	7	1	8	0.0	87.5	12.5	▲ 12.5
2. 建設業	2	7	0	9	22.2	77.8	0.0	22.2
3. 小売業	0	5	0	5	0.0	100.0	0.0	0.0
4. サービス業	0	6	2	8	0.0	75.0	25.0	▲ 25.0



【参考：前期調査結果】

	企業数				構成比			市川町 DI
	1.容易	2.不変	3.困難	合計	1.容易	2.不変	3.困難	
全産業	2	26	2	30	6.7	86.7	6.7	0.0
1. 製造業	0	7	1	8	0.0	87.5	12.5	▲ 12.5
2. 建設業	1	8	0	9	11.1	88.9	0.0	11.1
3. 小売業	0	5	0	5	0.0	100.0	0.0	0.0
4. サービス業	1	6	1	8	12.5	75.0	12.5	0.0



4. 人材の状況

(1) 人材D I

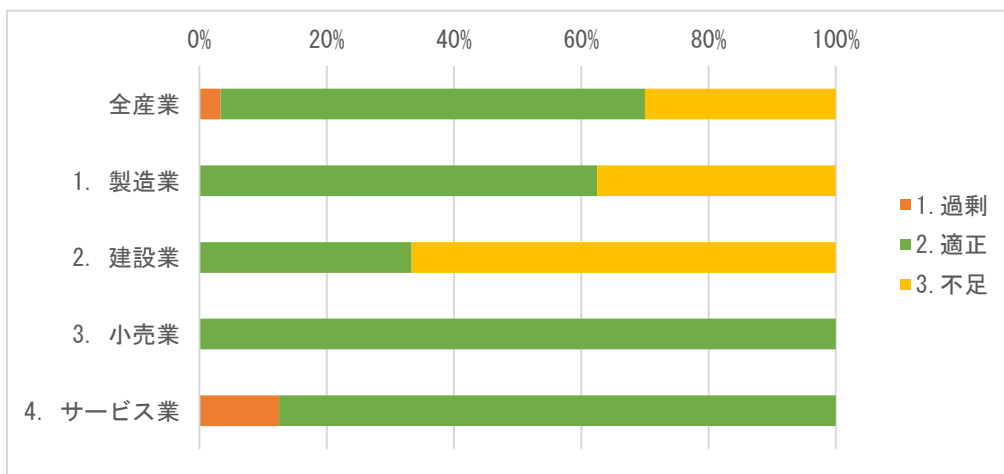
今期の全産業人材D Iは▲26.7で、前期の▲16.7より悪化した。製造業と建設業で、人材不足とする事業所が増えている。サービス業では、「人材過剰」とする事業所もあった。

兵庫県や全国では、引き続き全ての業種で不足傾向となっている。業種別で見ると、小売業以外で不足傾向が進んでいる。

図表8. 業種別人材D I

【今期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.過剰	2.適正	3.不足	合計	1.過剰	2.適正	3.不足	DI	DI	DI
全産業	1	20	9	30	3.3	66.7	30.0	▲ 26.7	▲ 10.5	—
1. 製造業	0	5	3	8	0.0	62.5	37.5	▲ 37.5	▲ 13.0	▲ 13.4
2. 建設業	0	3	6	9	0.0	33.3	66.7	▲ 66.7	▲ 29.1	▲ 31.5
3. 小売業	0	5	0	5	0.0	100.0	0.0	0.0	▲ 4.8	▲ 6.8
4. サービス業	1	7	0	8	12.5	87.5	0.0	12.5	▲ 5.8	▲ 9.7



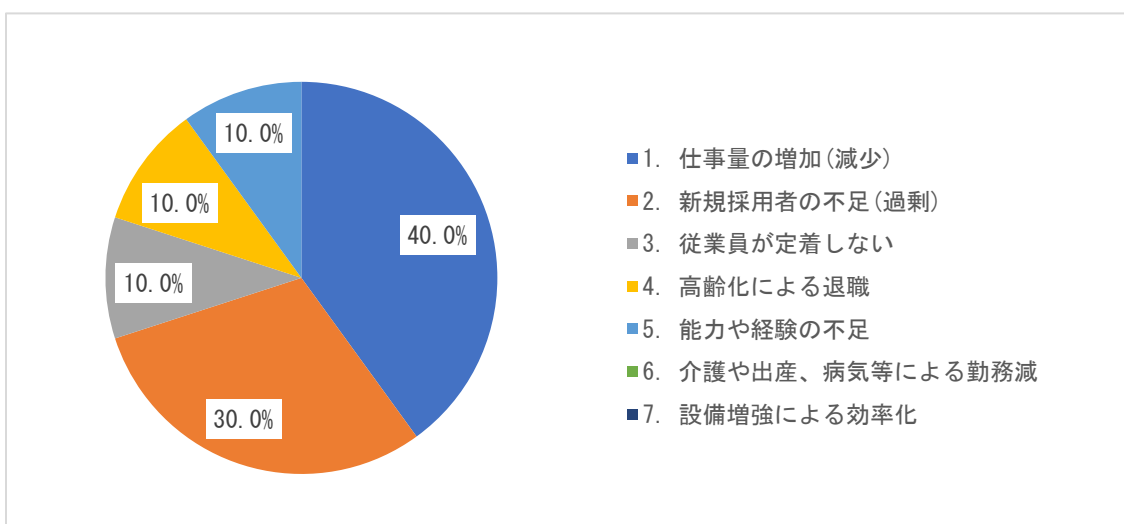
【参考：前期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.過剰	2.適正	3.不足	合計	1.過剰	2.適正	3.不足	DI	DI	DI
全産業	0	25	5	30	0.0	83.3	16.7	▲ 16.7	▲ 7.7	—
1. 製造業	0	6	2	8	0.0	75.0	25.0	▲ 25.0	▲ 4.6	▲ 9.5
2. 建設業	0	6	3	9	0.0	66.7	33.3	▲ 33.3	▲ 20.9	▲ 28.4
3. 小売業	0	5	0	5	0.0	100.0	0.0	0.0	▲ 9.3	▲ 8.2
4. サービス業	0	8	0	8	0.0	100.0	0.0	0.0	▲ 4.3	▲ 7.2

(2) 人材が過剰又は不足の理由

人材に過不足があると回答した事業所は10所で、最も多かった理由は「仕事量の増減(40.0%)」であった。次に、「新規採用者の過不足(30.3%)」が多かった。

図表9. 人材過不足の理由



(3) 従業員数（含む臨時・パート）

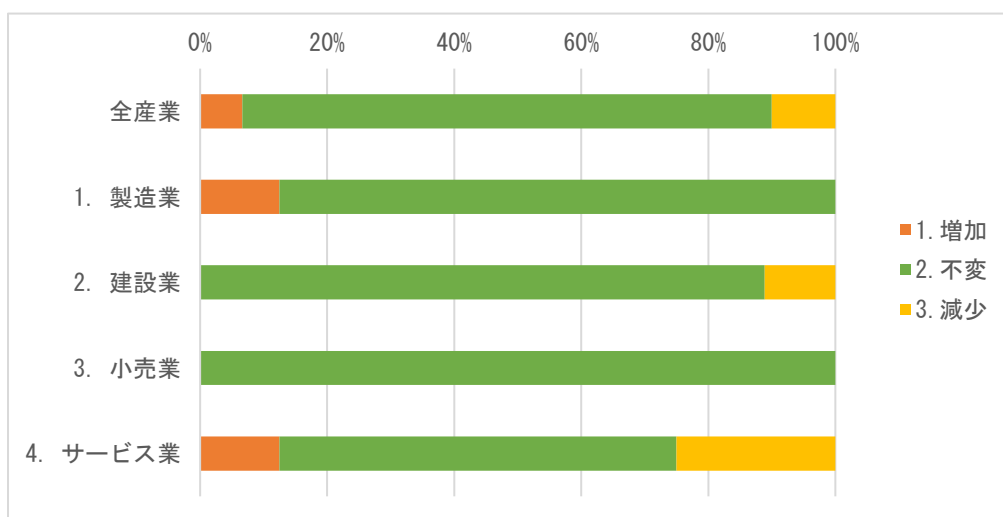
今期の従業員数D Iは▲3.3で、前期のプラス3.3からマイナス値へ転じた。業種別にみると、製造業と小売業では変化なかったが、建設業とサービス業で従業員の減少傾向が見られた。

兵庫県では、全業種でマイナス値がやや縮小した。

図表10. 業種別の従業員数D I

【今期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.増加	2.不変	3.減少	合計	1.増加	2.不変	3.減少	DI	DI	DI
全産業	2	25	3	30	6.7	83.3	10.0	▲ 3.3	▲ 5.1	—
1. 製造業	1	7	0	8	12.5	87.5	0.0	12.5	▲ 10.8	▲ 6.6
2. 建設業	0	8	1	9	0.0	88.9	11.1	▲ 11.1	0.0	▲ 5.7
3. 小売業	0	5	0	5	0.0	100.0	0.0	0.0	▲ 2.4	▲ 2.9
4. サービス業	1	5	2	8	12.5	62.5	25.0	▲ 12.5	▲ 4.5	▲ 6.9



【参考：前期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.増加	2.不変	3.減少	合計	1.増加	2.不変	3.減少	DI	DI	DI
全産業	2	27	1	30	6.7	90.0	3.3	3.3	▲ 7.9	—
1. 製造業	1	7	0	8	12.5	87.5	0.0	12.5	▲ 13.7	▲ 5.0
2. 建設業	0	9	0	9	0.0	100.0	0.0	0.0	▲ 4.3	▲ 3.7
3. 小売業	0	5	0	5	0.0	100.0	0.0	0.0	▲ 4.7	▲ 4.4
4. サービス業	1	6	1	8	12.5	75.0	12.5	0.0	▲ 7.3	▲ 7.5

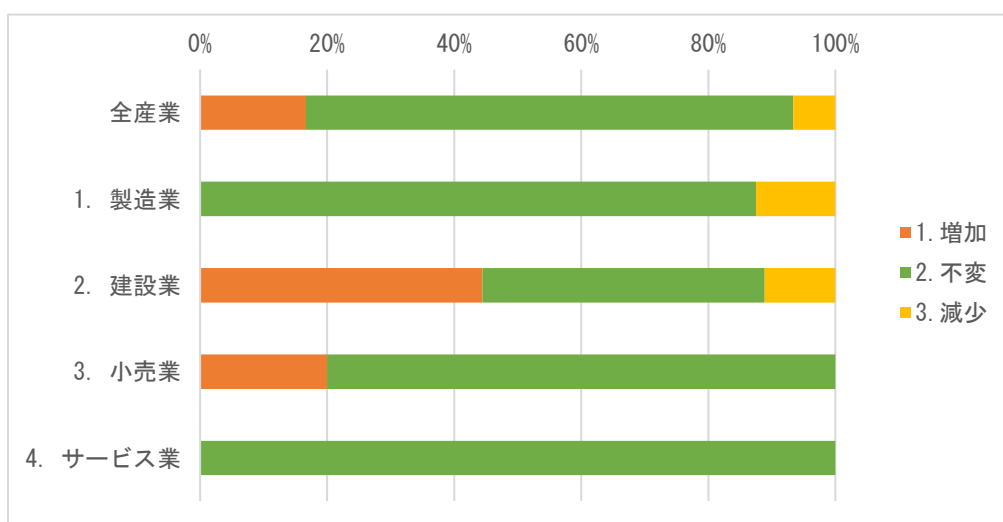
(4) 外部人材

今期の外部人材DIは10.0で、前期の3.3からさらにプラス値が広がった。業種別にみると、建設業と小売業では増加傾向となったが、製造業では減少傾向となった。兵庫県では、製造業と建設業で減少傾向が進んでいる。全国では、マイナス幅は大きく変化していない。

図表 1 1. 業種別の外部人材DI

【今期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.増加	2.不変	3.減少	合計	1.増加	2.不変	3.減少	DI	DI	DI
全産業	5	23	2	30	16.7	76.7	6.7	10.0	▲ 6.6	—
1. 製造業	0	7	1	8	0.0	87.5	12.5	▲ 12.5	▲ 9.7	▲ 2.4
2. 建設業	4	4	1	9	44.4	44.4	11.1	33.3	▲ 13.7	▲ 2.6
3. 小売業	1	4	0	5	20.0	80.0	0.0	20.0	▲ 3.2	▲ 3.0
4. サービス業	0	8	0	8	0.0	100.0	0.0	0.0	▲ 3.8	▲ 5.1



【参考：前期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.増加	2.不変	3.減少	合計	1.増加	2.不変	3.減少	DI	DI	DI
全産業	3	25	2	30	10.0	83.3	6.7	3.3	▲ 5.8	—
1. 製造業	1	6	1	8	12.5	75.0	12.5	0.0	▲ 3.3	▲ 2.4
2. 建設業	2	6	1	9	22.2	66.7	11.1	11.1	▲ 4.4	▲ 3.7
3. 小売業	0	5	0	5	0.0	100.0	0.0	0.0	▲ 13.3	▲ 4.2
4. サービス業	0	8	0	8	0.0	100.0	0.0	0.0	▲ 3.7	▲ 5.8

5. 業況の状況

(1) 業況DI

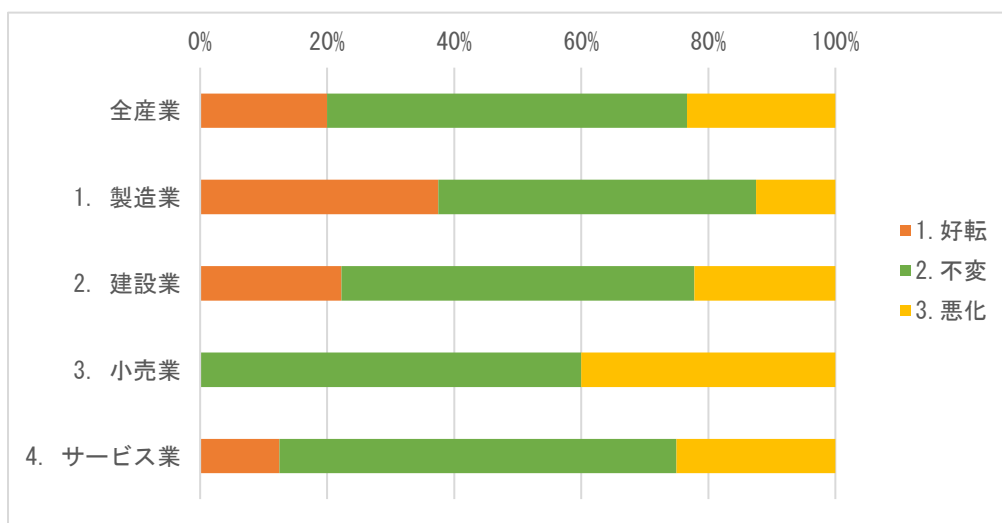
今期の全業種業況DIは▲3.3で、前期の13.3より悪化した。業種別では、建設業と小売業は前期よりマイナス幅が縮小したが、製造業とサービス業は数値が下がっており、サービス業ではプラスからマイナスに転じた。

兵庫県や全国では、前期はそれまでと比べ回復傾向が見られたものの、今期は再び悪化する結果となった。

図表12. 業種別の業況DI

【今期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.好転	2.不変	3.悪化	合計	1.好転	2.不変	3.悪化	DI	DI	DI
全産業	6	17	7	30	20.0	56.7	23.3	▲ 3.3	▲ 28.1	—
1. 製造業	3	4	1	8	37.5	50.0	12.5	25.0	▲ 13.3	▲ 18.0
2. 建設業	2	5	2	9	22.2	55.6	22.2	0.0	▲ 27.0	▲ 16.5
3. 小売業	0	3	2	5	0.0	60.0	40.0	▲ 40.0	▲ 33.3	▲ 43.9
4. サービス業	1	5	2	8	12.5	62.5	25.0	▲ 12.5	▲ 34.2	▲ 42.3



【参考：前期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.好転	2.不変	3.悪化	合計	1.好転	2.不変	3.悪化	DI	DI	DI
全産業	11	12	7	30	36.7	40.0	23.3	13.3	▲ 19.8	—
1. 製造業	7	1	0	8	87.5	12.5	0.0	87.5	8.9	▲ 17.8
2. 建設業	1	6	2	9	11.1	66.7	22.2	▲ 11.1	▲ 11.5	▲ 14.8
3. 小売業	0	1	4	5	0.0	20.0	80.0	▲ 80.0	▲ 39.6	▲ 35.7
4. サービス業	3	4	1	8	37.5	50.0	12.5	25.0	▲ 27.4	▲ 29.5

(2) 業況判断の背景 (自由回答)

「コロナの影響はほぼなくなった」「お客様は戻っている」という回答があり、新型コロナウイルス感染症の影響が薄れて景気回復へ向かっていることがうかがえる。しかし、受注の減少やイベントの中止なども依然として見られ、コロナの影響は続いている。

他方、仕入れ価格が上昇したり原材料が不足したりしており、景気回復に影を落としている。また、人材不足の影響も見られた。

6. 設備投資の実施状況

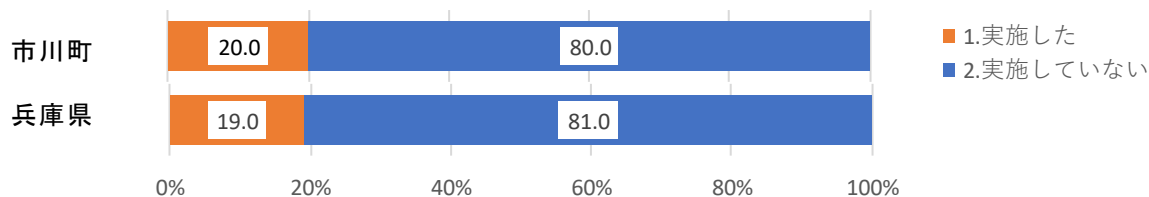
(1) 今期の設備投資

今期に設備投資した事業所は20.0%であった。前回と比べて増加している。製造業と小売業で設備投資した企業が増えていた。

図表13. 今期の設備投資実施状況

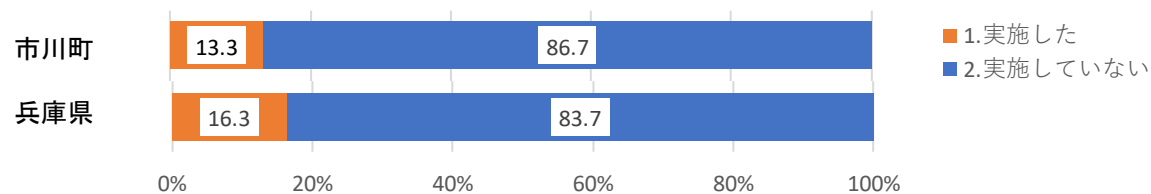
【今期調査結果】

	企業数			構成比		兵庫県構成比		全国構成比	
	1.実施した	2.実施していない	合計	1.実施した	2.実施していない	1.実施した	2.実施していない	1.実施した	2.実施していない
全産業	6	24	30	20.0	80.0	19.0	81.0	—	—
1. 製造業	1	7	8	12.5	87.5	15.2	84.8	16.4	83.6
2. 建設業	1	8	9	11.1	88.9	11.5	88.5	16.4	83.6
3. 小売業	1	4	5	20.0	80.0	14.6	85.4	12.1	87.9
4. サービス業	3	5	8	37.5	62.5	23.0	77.0	15.6	84.4



【参考：前期調査結果】

	企業数			構成比		兵庫県構成比		全国構成比	
	1.実施した	2.実施していない	合計	1.実施した	2.実施していない	1.実施した	2.実施していない	1.実施した	2.実施していない
全産業	4	26	30	13.3	86.7	16.3	83.7	—	—
1. 製造業	0	8	8	0.0	100.0	15.6	84.4	14.4	85.6
2. 建設業	1	8	9	11.1	88.9	15.4	84.6	20.0	80.0
3. 小売業	0	5	5	0.0	100.0	12.5	87.5	11.3	88.7
4. サービス業	3	5	8	37.5	62.5	17.8	82.2	16.2	83.8



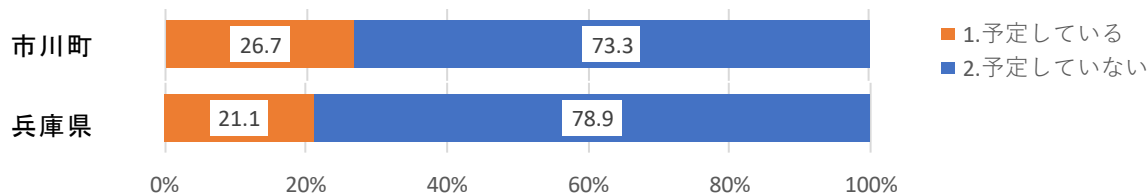
(2) 来期の設備投資

来期に設備投資を予定している事業所は26.7%で、前回より減少した。兵庫県の21.1%と比較すると、設備投資を予定している事業所の割合は多い。

図表14. 来期の設備投資計画

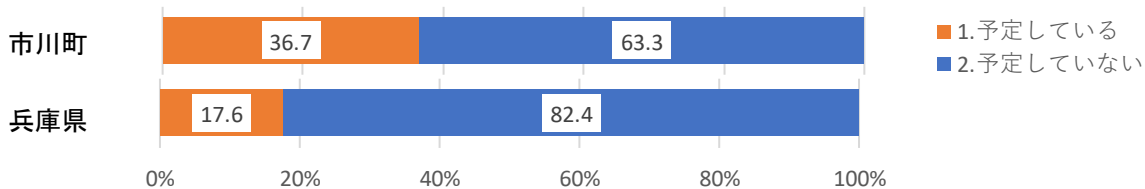
【今期調査結果】

	企業数			構成比		兵庫県構成比		全国構成比	
	1.予定している	2.予定していない	合計	1.予定している	2.予定していない	1.予定している	2.予定していない	1.予定している	2.予定していない
全産業	8	22	30	26.7	73.3	21.1	78.9	—	—
1. 製造業	3	5	8	37.5	62.5	15.2	84.8	17.6	82.4
2. 建設業	4	5	9	44.4	55.6	15.4	84.6	14.6	85.4
3. 小売業	0	5	5	0.0	100.0	20.8	79.2	11.2	88.8
4. サービス業	1	7	8	12.5	87.5	25.7	74.3	15.2	84.8



【参考：前期調査結果】

	企業数			構成比		兵庫県構成比		全国構成比	
	1.予定している	2.予定していない	合計	1.予定している	2.予定していない	1.予定している	2.予定していない	1.予定している	2.予定していない
全産業	11	19	30	36.7	63.3	17.6	82.4	—	—
1. 製造業	2	6	8	25.0	75.0	17.8	82.2	18.7	81.3
2. 建設業	3	6	9	33.3	66.7	11.5	88.5	17.7	82.3
3. 小売業	1	4	5	20.0	80.0	14.6	85.4	12.5	87.5
4. サービス業	5	3	8	62.5	37.5	20.5	79.5	15.6	84.4



7. 最も優先すべき経営上の課題

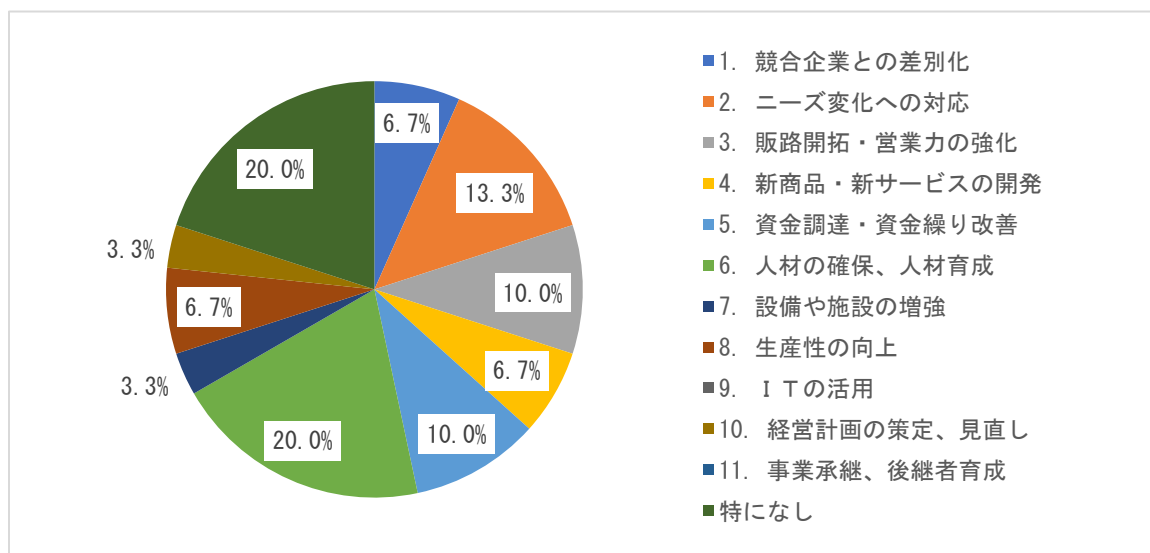
今期に最も優先すべき経営上の課題は、「人材の確保、人材育成」が20.0%と最も多かった。次いで、「ニーズ変化への対応」が16.7%と続く。

前期は「資金調達・資金繰り改善」がなかったが、今期はこの課題を挙げた事業所があった。原因として、緊急事態宣言解除による消費の回復に向けた活動、原材料仕入れ価格上昇による資金需要などが考えられる。

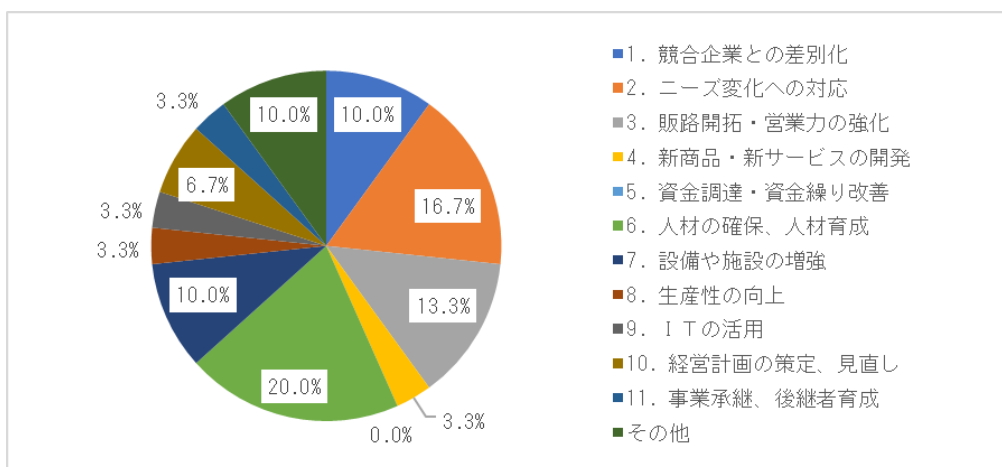
経営上の課題は「特になし」と回答した事業所が6社あった。特に問題なく経営が継続できるのは良いことであるが、経営上の課題が全くない状況は考えにくく、事業者が認識していない課題を抽出する支援が必要だと考えられる。

図表15. 経営上の課題

【今期調査結果】



【参考：前期調査結果】



【参考資料】 自由記述回答

問 3-13 業況判断の背景について、貴社が感じておられることをお書きください。

コロナの影響はほぼ無くなった
新規の注文があった
お客様はすこしずつ戻っている。取扱いがなくなった商品があるため昨年同期よりは売上等減少している。
熟練職人の不足
人手不足
受注の減少
緊急事態宣言のため、地域のイベントや学校行事の中止などによる人出の減少が響いていると思います。
コロナでより田舎に行きたい人が増えている
8月の天候不順により客足が遠のいた
原材料が仕入れられない状態が続いている
仕入れ値が上昇している
業界全体が安さを求められているが、社員の能力も無いのに人件費が高く、従業員の休みが多いので会社の利益や効率が悪い

問 4 その他、地域の景況についてや商工会へのご意見ご要望など、ご自由にお書きください。

原材料の値上がり
IT 関係相談窓口設置を希望
補助金等があれば教えてほしい
夜間だけでなく、昼間に営業しているお店にも給付金を支給してほしい。緊急事態宣言の日数分、さかのぼって支給してほしい。
感染が拡大しているのは、夜間だけではありません。
いつも感謝します！より一層おねがいします。